

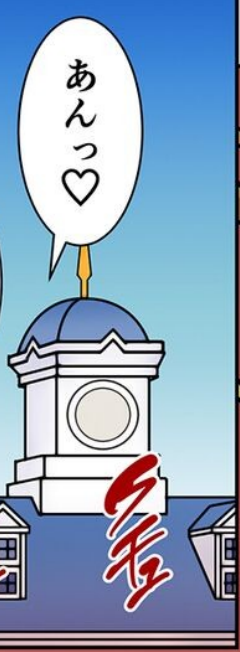


んんっ...!

んっ...♡

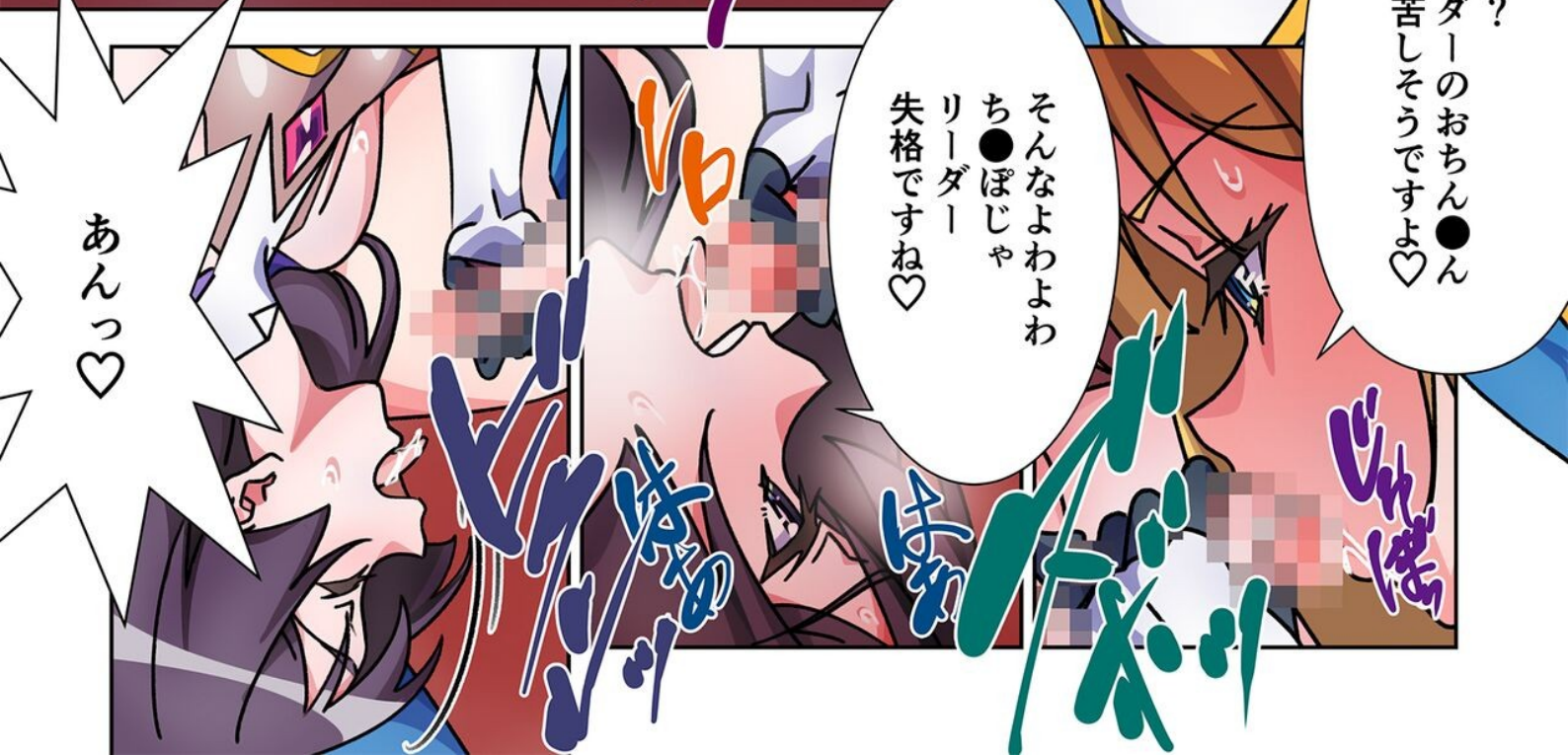
んっ...

んふっ...

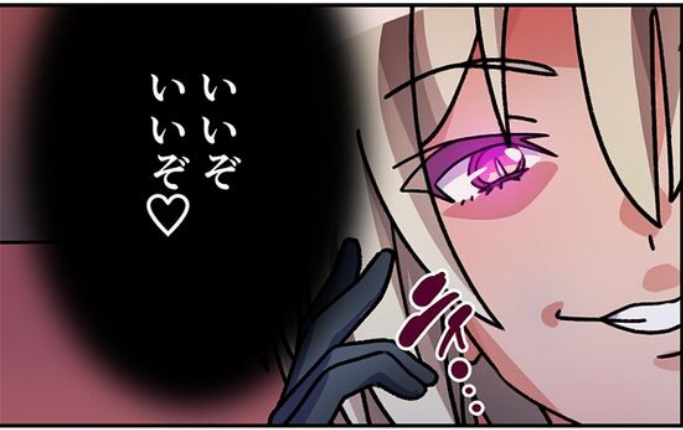


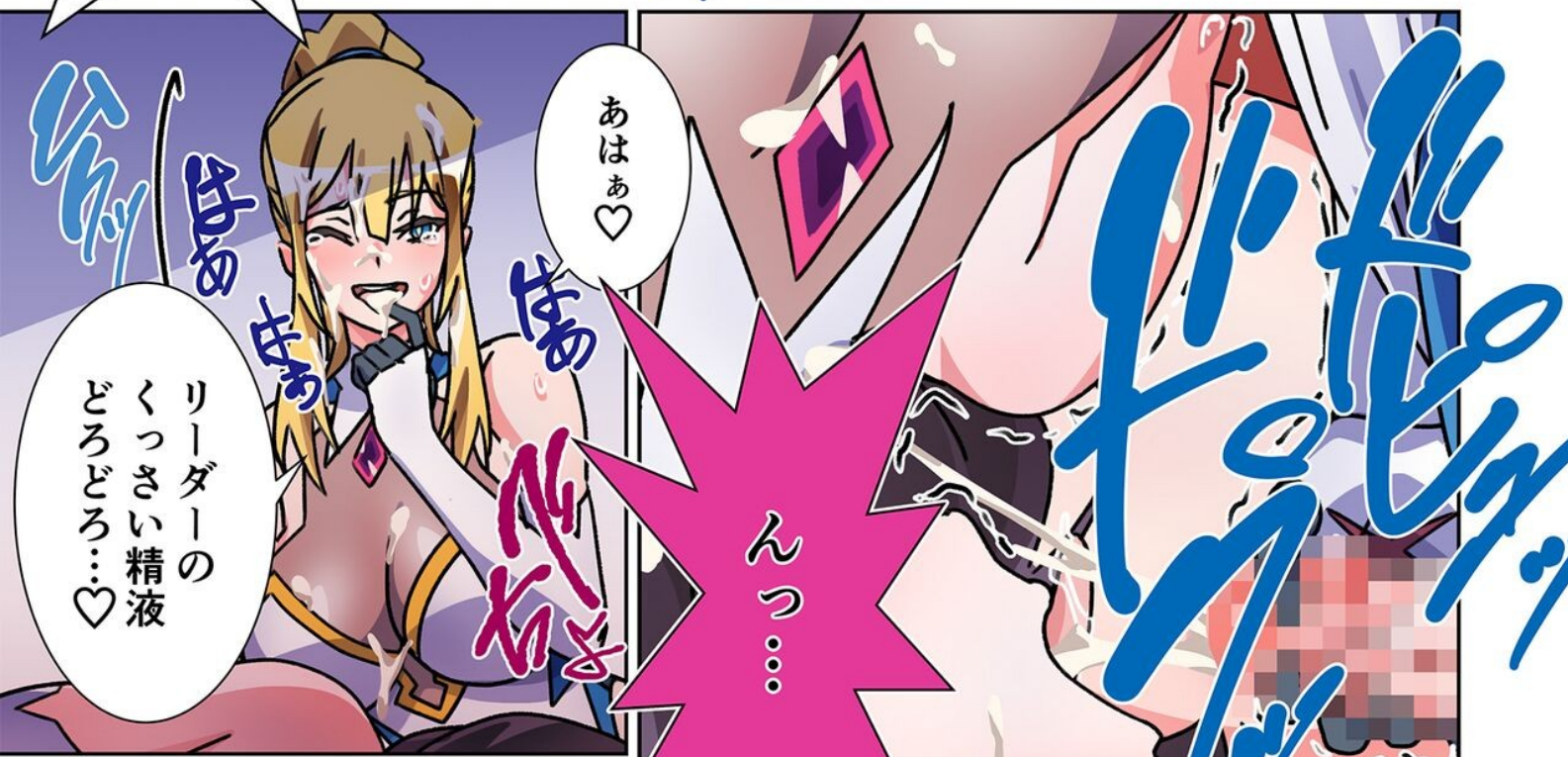
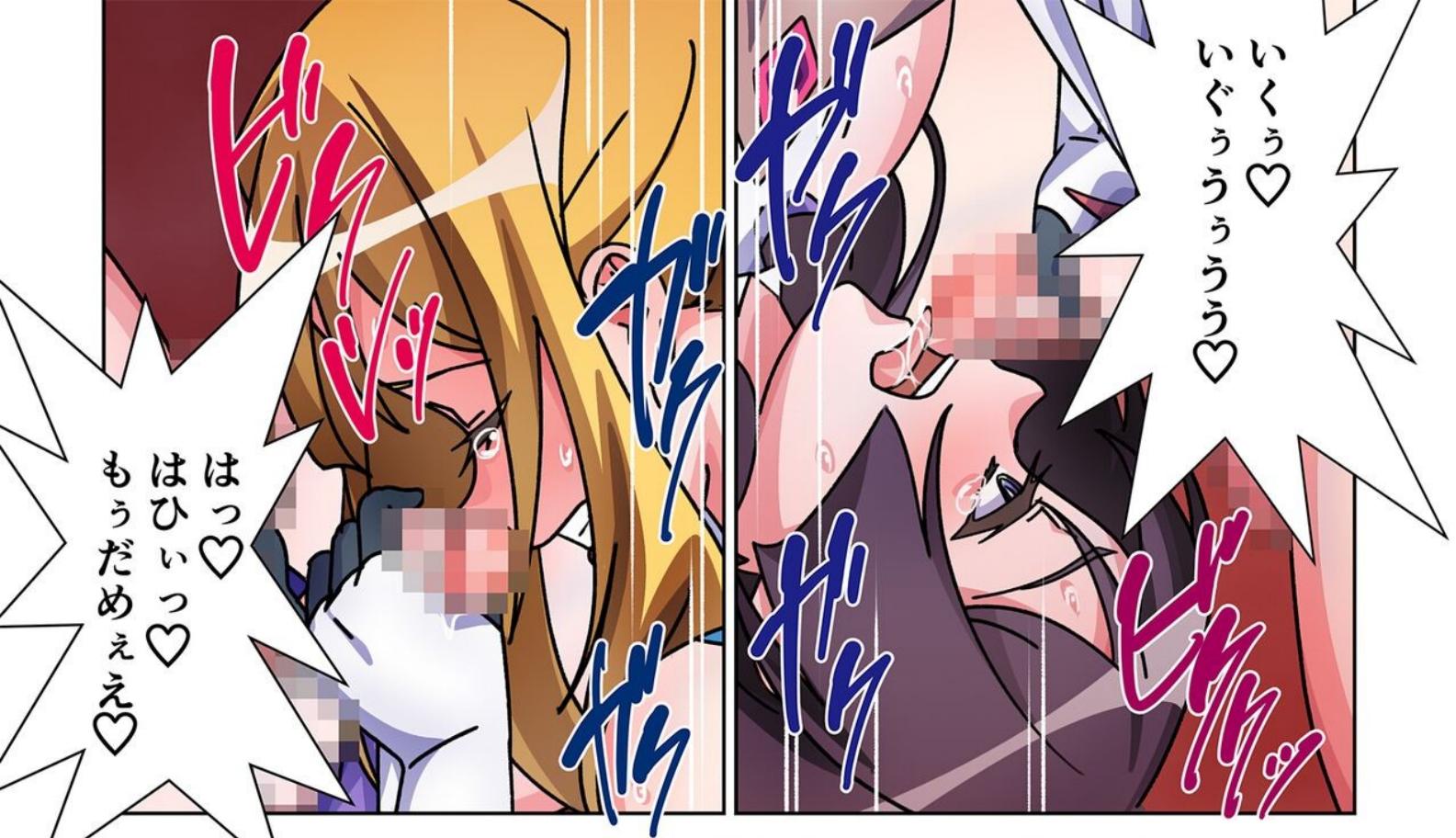
あれ？
リーダーのおちん●ん
妻く苦しそうですよ♡

そんなよわよわ
ち●ぽじゃ
リーダー
失格ですね♡



あんっ♡





だが…
お互いの
精液をかけあったのに…

なぜ変身
しない…？

人間に戻した時
チ○ポも
生えたままだったから
変身するものと
思っていたが…

んんんん

どうやら
モルゲツソヨの
状態でないと
変身しないようだな…

ねえ…
二人とも

二人のエッチな
姿を見てたら
俺のマ○コが
キュンキュン
疼いちゃうんだけど♡

俺も
混ぜてよ…♡

ごめんごめん
仲間外れに
しちゃってたね…♡

遠慮しないで
入ってくれば
いいの♡

ほらっ
こっちおいで♡



エマは私たちの
ご主人様なんだから…

シたかったら
私たちに命令しちゃえば
いいんだよ♡

ふふ…
お前たち本当に
光の勇者かよw

はあ
はあ



単なる淫婦に
なりさがったなっ

もしかしてエマって
乳首が弱点…?♡

あれっ…?
カラダをこんな
に痙攣させて…

はあ
はあ

そうそうっ
ムラムラしてるなら
私たちを性処理の
道具に使えばいいん
だからっ

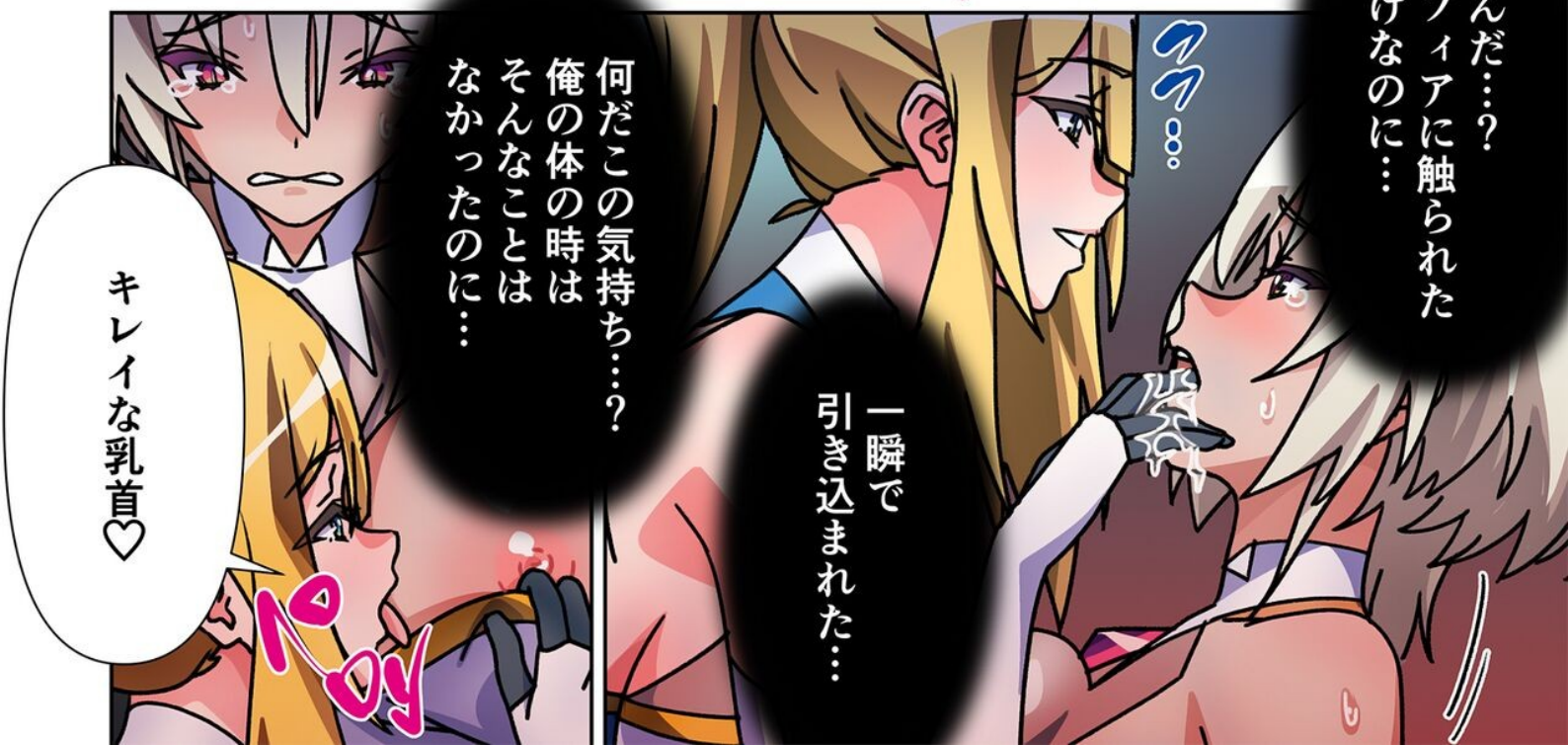


あひっ...!!

あら？
私たちにそんな汚い
言葉を使ったって
貴女のココロも
大洪水じゃない♡

イヤらしい
声出しちゃって♡

そんなに
気持ちいいのね♡



なんだ...？
ソフィアに触られた
だけなのに...

一瞬で
引き込まれた...

キレイな乳首♡

何だこの気持ち...？
俺の体の時は
そんなことは
なかったのに...



何故だ…?
最強のサキユバスの
俺がこんな女どもに
やられ放題だなんて…

こんなはずじゃ…
体が…言うことを…



もっとエマが
喘いでるところ
見せてよ♡

ねえ
エマ…



すごい
奥まで入っちゃおう♡

乳首を刺激されると
電気を流された
ように体中に
快感が走る…

自分の意志とは
無関係に
体が痙攣して
力が入らない…

こんなはずじゃないのに
気持ち良すぎて…
頭が真っ白になる…

まるでカラダの隅に
俺の人格が
閉じ込められて…

お願い…
ソフィア…
好きって言うって…♡
お…れ…
アタシ…
おかしくなっちゃう…♡

ああなんだ…
そんなことか…♡

エマ
この女の人格が…
逆に俺を
支配していく…っ

お願いだから…
あんな男じゃなくて
アタシを…
アタシだけを見てよ…

もちろん
私も大好きだ…♡
エマ♡



アタシは幼い頃に
両親を亡くし
行くあてもなく
街を彷徨っていた…

そんな中彼女は
聖母イルファージュ様
のように私の前に
現れた…

貴女が
エマね

一緒に来て
貴女の力が
必要なの！

絶望の淵に
可憐に咲く花の
ような彼女に私は
一瞬で引き込まれて
しまった…

あの時から強くて
美しい彼女に
ずっと
憧れていた…

だけど
彼女には
男がいた…

分かっては
いた…

こんなに美しい
彼女に
彼氏がいないはずは
ないと…

っち…
またアイツと…
なんであんな
男が…

死ねばいいのに…



今のは…
以前の記憶…

そうか…
アタシ…

エマ…
いいよね…

あつ
ああ…

アタシ

根本まで
挿入しちゃったあ♡

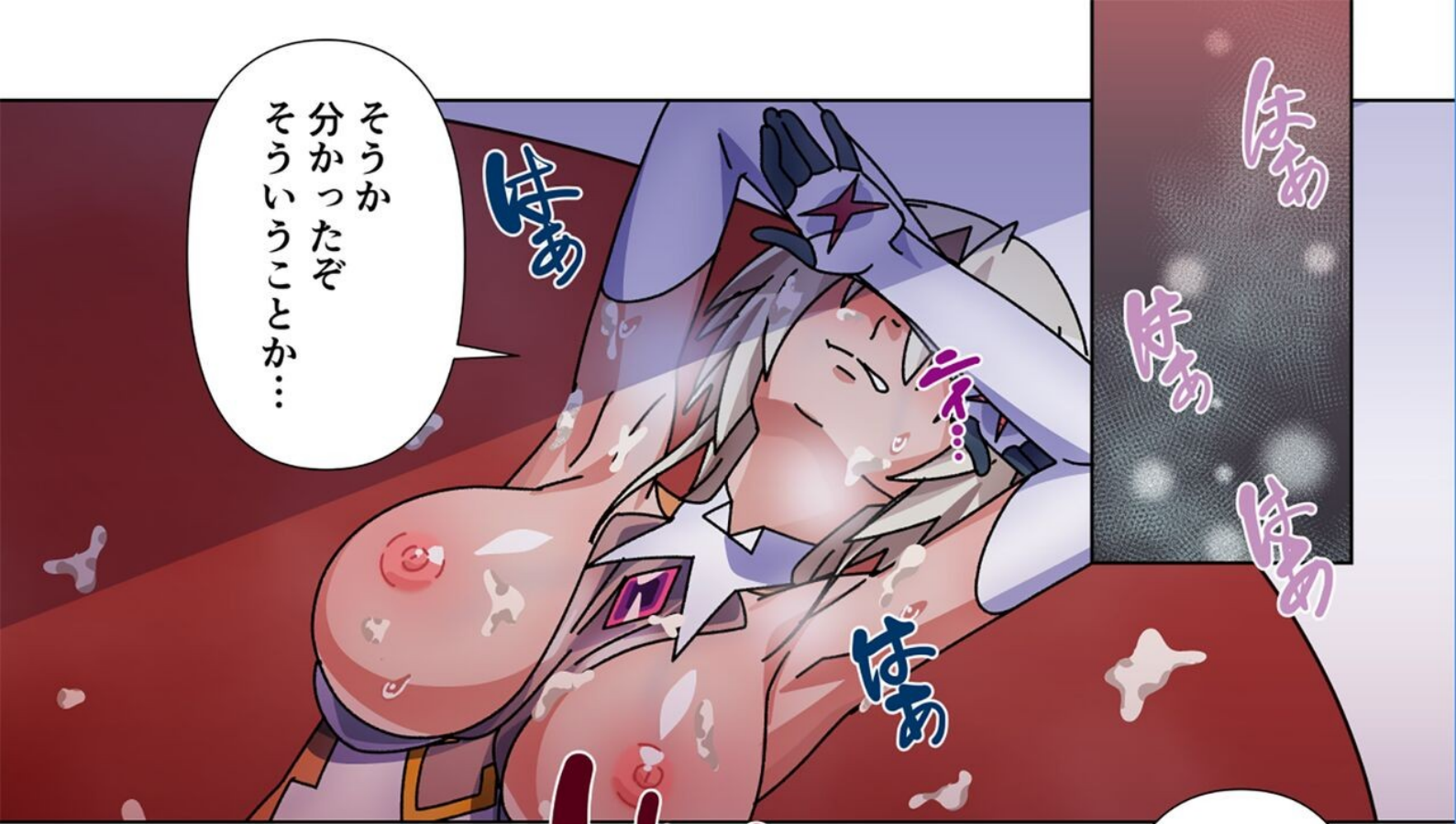
アタシ…
あの男に
嫉妬していたんだ…っ

幸福感
そして
優越感…

それが複雑に
絡み合って
快感が更に
高まる…

まるで…
意中の人を
寝取ったかの
ように…





そうか
分かったぞ
そういうことか…

はあ
はあ
はあ



マ○コの中に
入れたな…

確か
このカラダを
乗っ取ったときに…



そうそう
これこれ！

現に
これを取り出したら
変な感情も
なくなつたしな



んっ♡

さっきまでのオレは
こんなおもちやみみたいな
人形に支配されてた
のかよw

今度取り込むときは
女の思考にならないように
ある程度セーブしないとな…

人格体のくせに
愛撫してやれば
気持ちよくなるのかよw

んっ?
何だコイツ…

うわっ

きったねえな…

人格体も
潮吹きすんのかよw

まっ
こいつで
もうちよっと
遊んでみるかっ

何か
面白いことに
なるかもしれん

んっ…んっ…



はいつ
エミリー
タオル!

お久しぶりねっ
エミリー♪
元気だった?

エリーちゃん…

サキユバスの
討伐の件…
さすがねっ

あなた達の
活躍は王宮まで
ちゃんと届いていますよ

じゃない!
エリザベート様!!



って…
また…



私から挨拶を
しなければ
ならない所
大変失礼
いたしました

エルデンブルク王国
第二王女で
在らせられる
姫殿下がなぜ
このようなところに…っ



私たちは
幼馴染の
親友のはずでしょ?

そういう
改まった言い方は
距離を感じて
しまいますっ

もうやめてって
お願いしたでしょ?

ほら見て？
街の皆を…

みんな
笑顔で街に活気が
あるなんて
信じられないでしょ？

私もこうして
街を衛兵なしで
歩けるようになったし…

全部貴女達が
身を挺して
私たちを守ってくれた
お陰…

国民の全員を
代表して…
本当に
ありがとう…
エミリイ…

エリーちゃん…

エリーちゃんに
そういう風に
言われると私…

バカね…

凛々しい
貴女が
台無しよ…

だって…
だって…

私ほかのみんなと
ちがって全然弱いし
足手まといになって
るんじゃないかって
必死で…

貴女は
人一倍努力家なのは
私が一番知っています…
がんばりましたね…



それじゃあねっ
エミリイ
今度
姉さまと一緒に
正式に挨拶に
伺うわ



平和になった
いまなら
昔みたいに…
姉さまと
エミリイと
3人で一緒に
遊べるかしら…



なっ
ナニあれ…?
顔がない…!?
しかも
何で周りの
人たちは
平気でのいるの…?

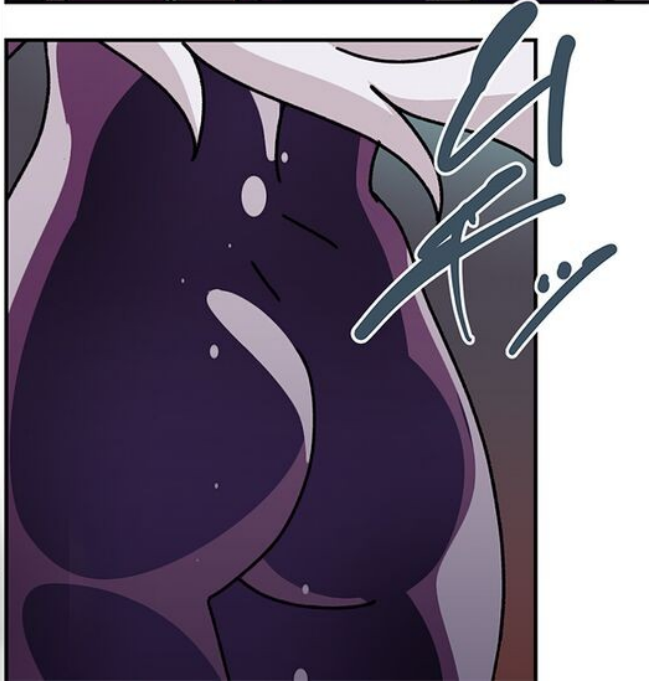
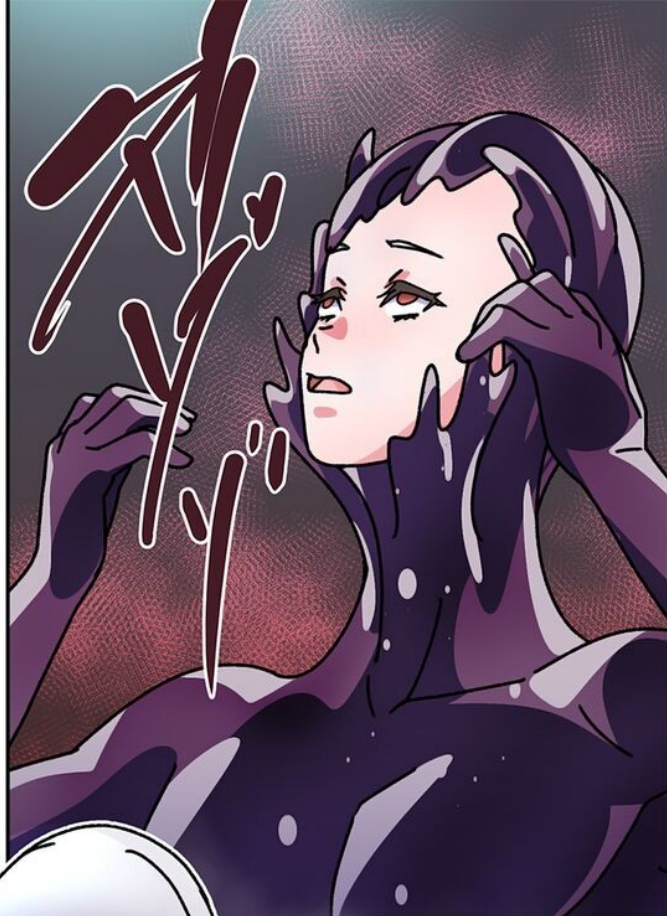
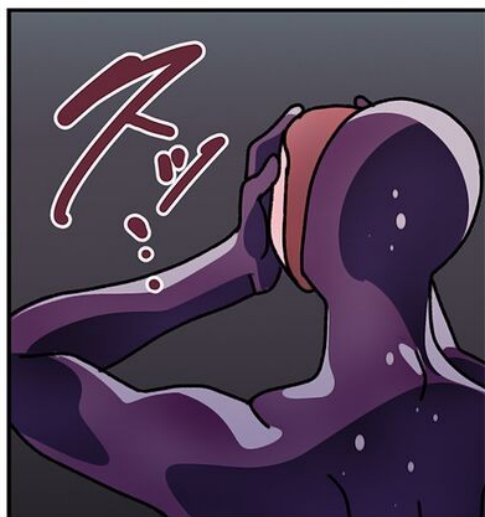


ひっ!?



絶対サキユバスの
残党だ…
早く戻って
エミリイたちに
伝えなきゃ…





ニンゲンの
メスには
初めて擬態したが…
不思議な感覚だ…

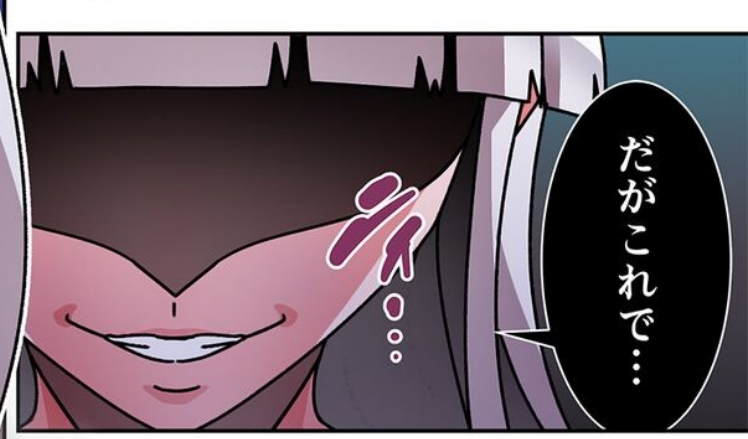
こんな
威厳も力もない
華奢な体のメスに
なぜニンゲンたちは
膝まづいていたんだ…？

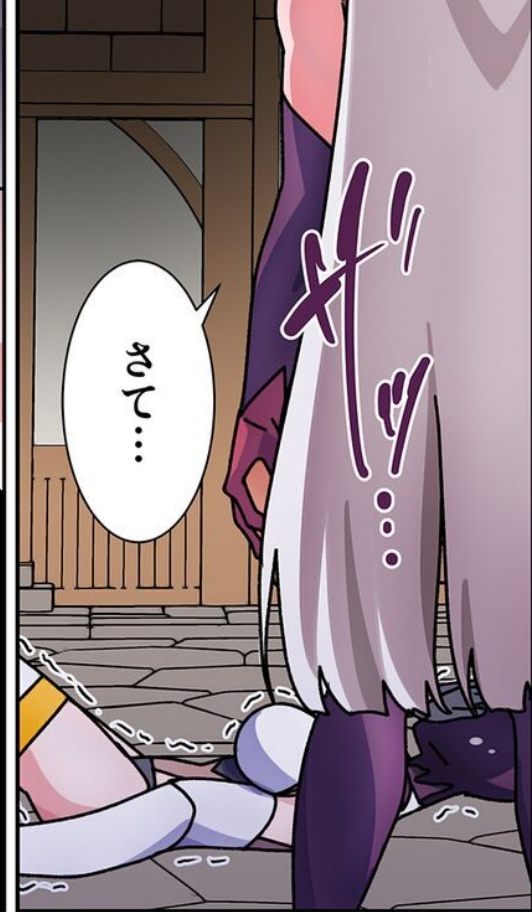
この第二王女の
姿を献上すれば
サキユバス様も
さぞ喜んで
下さるだろう♡

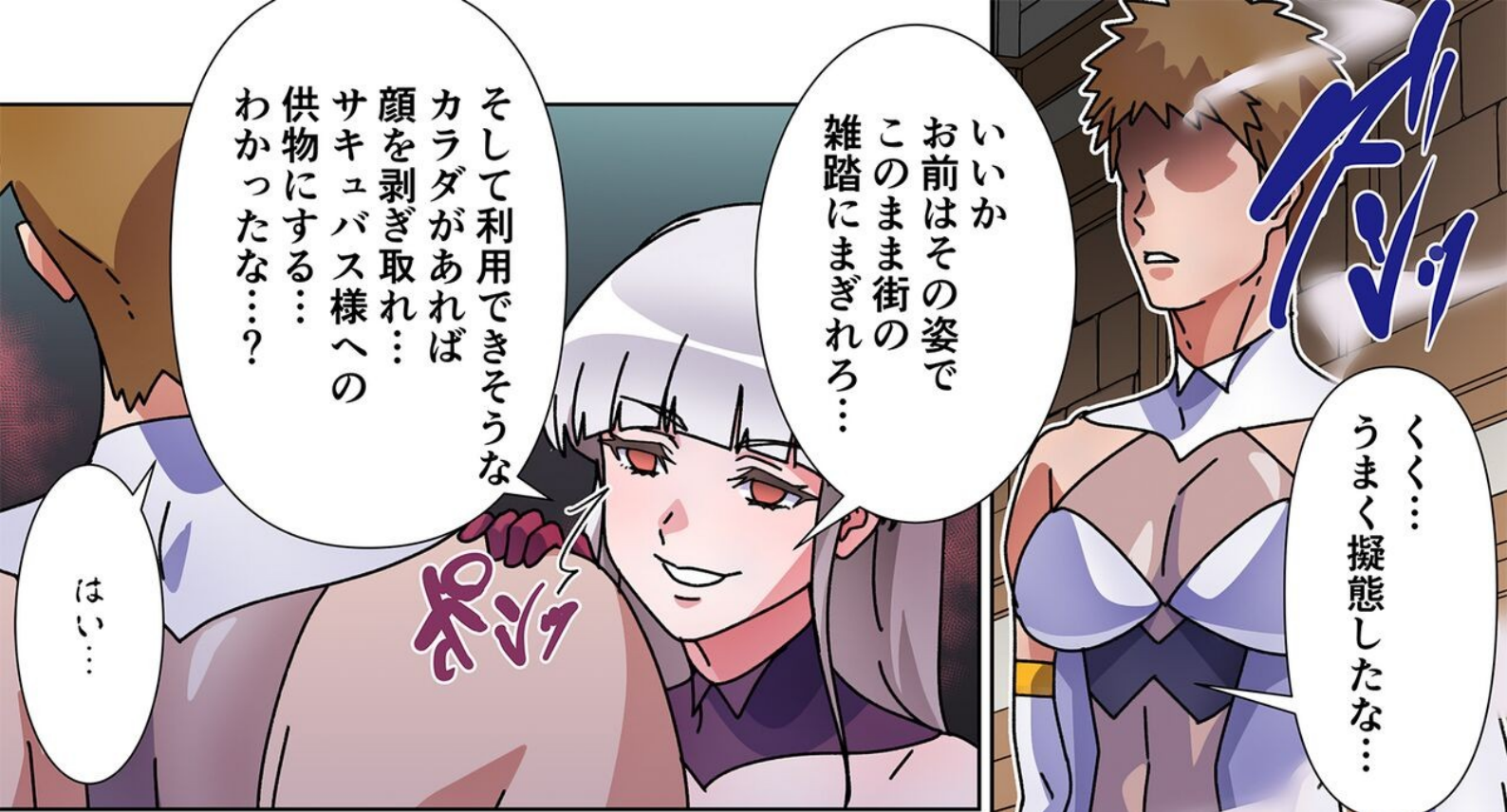
よくわからん…

俺サマにも
ようやく運が
向いてきたな…w

だがこれで…







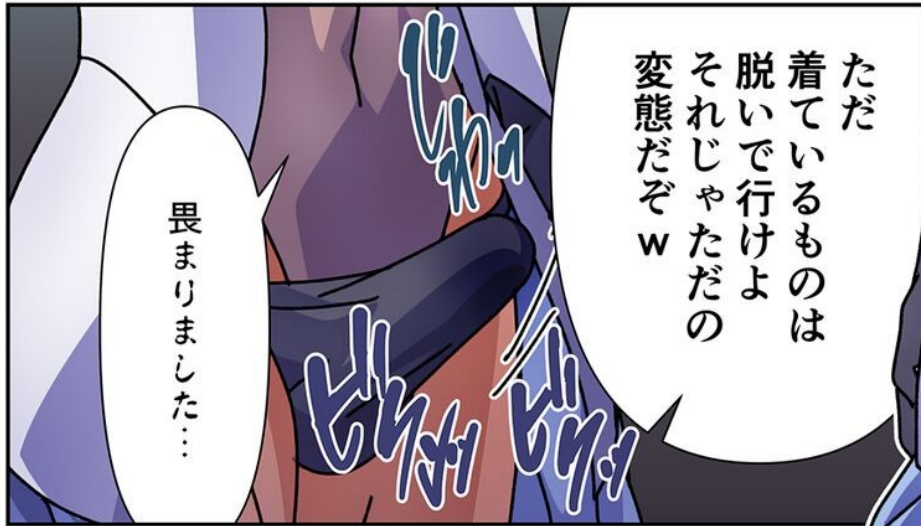
いいか
お前はその姿で
このまま街の
雑踏にまぎれろ...

そして利用できそうな
カラダがあれば
顔を剥ぎ取れ...
サキユバス様への
供物にする...
わかったな...?

くく...
うまく擬態したな...

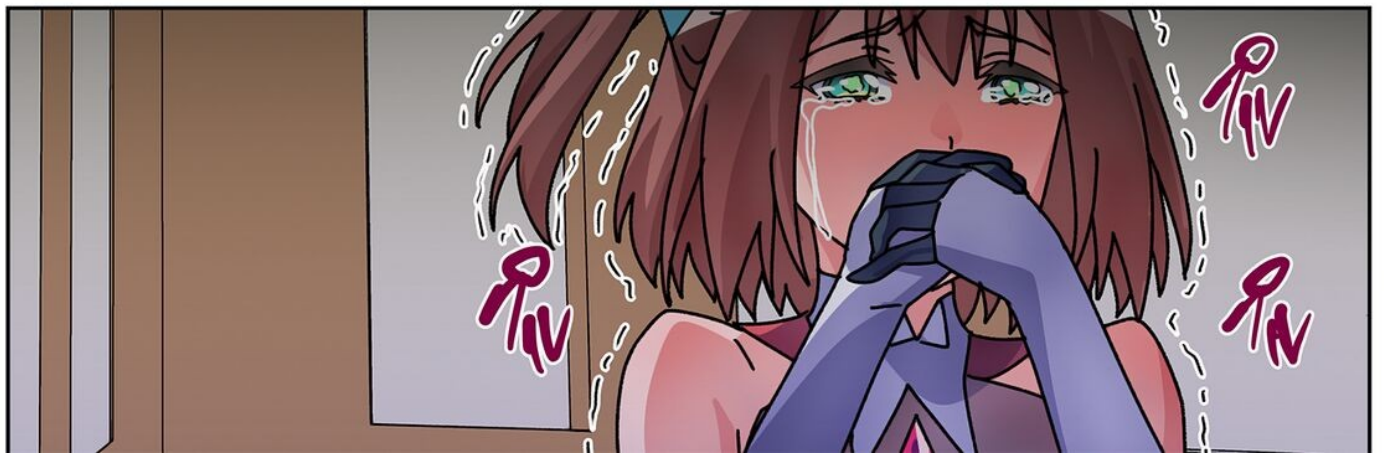
はい...

ポンッ



ただ
着ているものは
脱いで行けよ
それじゃただの
変態だぞw

畏まりました...





あひいいん♡



ふあああ…
エマ…♡
エマ♡

エマのあそこ…
蕩けそうなくらい
気持ちいい…♡

ダメ…

シヨシヨ
止まらない…♡

バカに
なっちゃう…



射精がっ♡
止まらない…♡

シヨシヨ
きもちいい♡
いっぱい
射精ちゃう♡

まああとで
実験してみるか…

エマの強い正義感が
淫乱な
性格に変化するかもしれん…

くく…っ
さっきまでは
必死に逃げようとしていたのに
もしかしたら
このまま人格体を
レ●プし続ければ



レ●プされてる
エマの人格体の
様子を見る限り…
嫌がるどころか
かなり悦んでいるな…



まったく仲間をレ●プ
するなんて
リーダーの
やることかよW

あくあこんな
中出ししちまってW
汚ったねえなW



ケダモノの
顔してますよ
リーダー…W

エマにそんな
酷いことしたら
かわいそうじゃ
ないですかW



今度は
俺の番だ…

だけどお前だけ
気持ちよくなるのも
ここまでだ

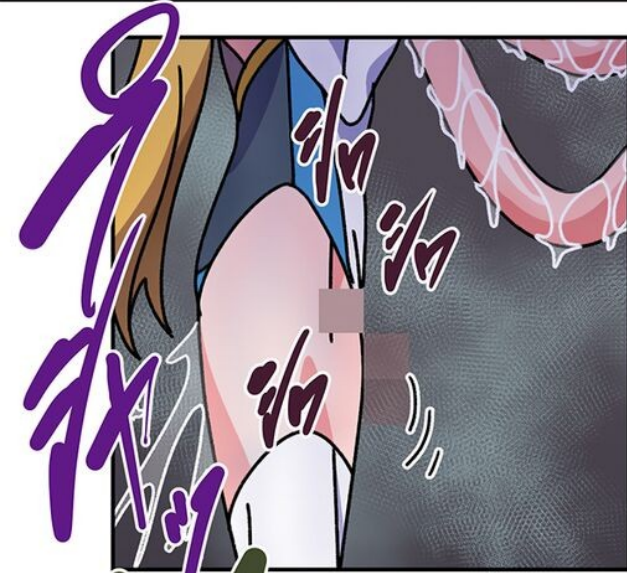


この体を
皮にするんだ

さあ

も……

もっ……



んグツ





この人格体が
精神を司っている
ということとは…

さてここからは
実験だ…



ふふ…♡
久しぶり♡
ソフィア♡



こうして
別の体に挿入れて
やればカラダが
入れ替わった状態って
ことになるはずだ…



だから元彼氏の責任として
俺がちゃんと
お前のこと制御して
ちよつとずつ
同化してあげるからね♡

でも
「元彼女」を挿入れちゃうと
心と喋り口調までソフィアに
なっちゃうしなあ♡

男の俺が
女の子になるなんて
考えただけで
子宮がキュンキュン
しちゃう♡♡



でだ…

俺も「元彼女」を
挿入れてソフィアに
ならないといけない
ワケだけど…



やっべえ…
超楽しい
♡

エマ！
エマツ！！

おい
目を開けろ！
エマツ！！

う…
ううん…
なんだ…？

なんか…
変な夢を
見ていた
ような気が…

よかった
目が覚めて！

落ち着いて
聞いてくれ！

どうやら
サキュバスを討伐
した際に呪いをかけられ…

私たちが
カラダが入れ替わって
しまったみたいなんだ！！

突然のことで
驚いているかも
しれないが
私たち二人なら
こんなことは
絶対乗り越え
られる！！

だから
協力して…

まさかこんな
遅効性の呪いが
かけられていたとは…

いいか？
変に混乱させる
だけだから

このことは
リーダー達には
黙っておこう

あ…っ

あああ…っ
♡

あああ…っ
♡

アタシが
ソフィアにい
♡♡♡

えっと
とりあえず
状況は分かった…

そうだなっ
きよ…っ
協力して
乗り越えていこう…っ

でも…
ちよつとごめんっ！
アタシ…
トイレ！

ソフィアの
カラダなのに
あの…
ごめんね…

ハッ…

ああ…
ごめっく…

どん

ハッ
ハッ

きつと
イルファージュ様が
かわいそうなアタシに
この体を
プレゼントされたんだ♡

ソフィア♡
アタシのソフィア…
アタシがソフィアに
なっちゃったあ♡♡♡

あんな男より
やっぱりアタシが
相応しかったんだ!!

ふふ…

やはり
人格体をレ●プ
したことにより
性格が歪んだか…w

やっべえ…♡
超サイコー♡

ハッ
ハッ
ハッ
ハッ





さて…



男なのに
心は淫乱なソフィアで
カラダはエマ…

すっげえ
倒錯してんなw



俺の方も
ソフィアをもっと
レ●プして
淫乱にしてやるかw



んっ？

失礼します…



だが全く人間の
臭いがしない…

結界も難なく突破し
俺の事も
一瞬でサキュバスと
見抜いた…

突然なんだ…？コイツ…
見たことあるぞ…
たしか
王妃の双子の妹…



お初に
お目にかかります
サキュバス様

その麗しいお姿を
拝見することができ
無上の幸せに
存じます…

是非とも更なる
ご慈悲を賜りたく
この第二王妃のカラダを
供物として
献上に参りました…

—ということが
ございまして
この姿を手に入れて
参りました：

どうぞ私のこの力と
第二王女の地位を
サキュバス様のお役に立てて
いただければと
存じます：

……

へえ…
すごいね…

でも
何故お願いする
立場のあなたが
私より身分が
上なのですか？

私が平民…
あなたが
王族…

何か
おかしい
ですよ…？

結構な魔力を
お持ちのようですし
いざとなったら
裏切るつもり
なのでしょう？

私そういうのが
一番信用
できないんです…

だから
私がその魔力

全部もらって
あげるよ…w

!?

お前の能力を
奪い私はまた
強くなる…

プリンセスは
お前じゃなく
私なんだよ

そ…っ
そんなつもりではっ
おたすけを…っ

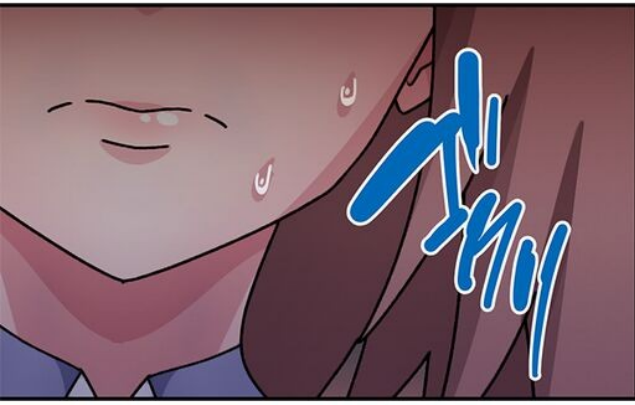
!?

これが私の
一番相応しい
姿です…♡

っ
…
…
…

ング…ッ!!

ドクッ



あれがエリーちゃん…？
魔法で姿を変えられて
記憶を書き換え
られているの…？

記憶の改ざん
だけなら
神父様の所で
なんとかかなるはず



ねーねー
おねーさん♥

そんな大きなおっぱい
見せられたら
おれのマグナムが
反応しちまうってw

どーお？
お兄さん
お金あるなら
今晚一緒に♥

おねーさん♥



こっちにも
イイ女が
いんじゃないw

ねーちゃん
暇だったら
俺とイイこと
しようよ♥



なら
金出すから
一発やらせてよ♪

!!

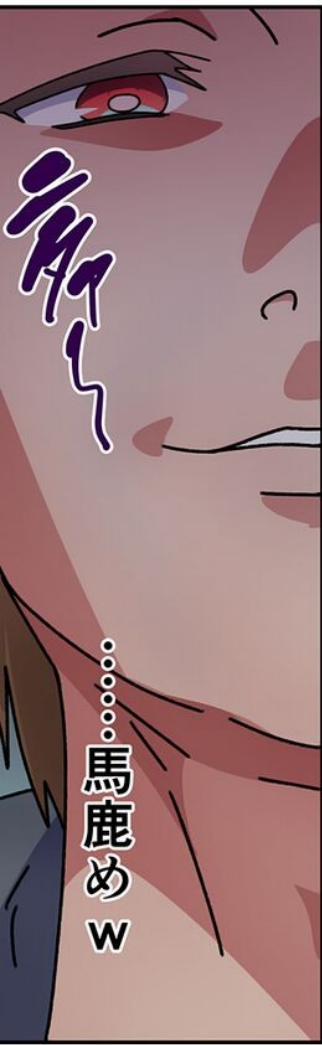
その代わり
高いわよ
私♥



強引に
連れて行けば
ケガをさせて
しまう…

どうにか
話をして
納得させて…

あ…
あの…っ



.....馬鹿めW

俺キミたちと
友達になりたかった
んだよねえ〜♪

おど



キミ
もしかして
光の戦士じゃね？

このコスチューム
ぜってえ
そうでしょ？



やめ...
やめ...

ねー
イイだろ？
満足させて
あげるからさっ

おど

エミリイ...
えみりい
いい♡

ぐふ...

つづく...